

## 抗議の要請文

昨年12月31日の原子力潜水艦ハンプトンの横須賀入港に強く抗議する。横須賀は原子力潜水艦の母港ではない。原子力潜水艦ハンプトンは横須賀港から出て行くこと要求する。

米海軍第7艦隊司令官	フィリップス・ソーヤー中将 殿
在日米海軍司令官	ブライアン・フォート少将 殿
米海軍横須賀基地司令官	マイケル・リッチ・ジャレット大佐 殿

神奈川県労働組合総連合
新日本婦人の会神奈川県本部
神奈川県商工団体連合会
神奈川県平和委員会
安保廃棄神奈川県統一促進会議
原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会
原水爆禁止神奈川県協議会

昨年12月31日10時10分、ロサンゼルス級原子力潜水艦ハンプトンが横須賀に入港した。これで2019年の原子力潜水艦の入港は16回目、原子力艦船の入港は20回目で通算1001回となった。

原子力潜水艦の横須賀入港は、9月以来3ヶ月ぶりの入港である。現在、横須賀港には、原子力空母ロナルド・レーガンが滞在していて、原子力艦船の原子炉3基存在している。横須賀港に原子力艦船が入港することは、原子炉事故の危険性を増大させ、横須賀市民や首都圏住民の命とくらしを脅かすものであり断じて許されない。強く抗議するとともに、原子力空母ロナルド・レーガン、原子力潜水艦ハンプトンは直ちに横須賀港から出て行くことを要求する。

この間、西太平洋やインド洋地域において、米軍と自衛隊が一体となって共同軍事訓練をおこない、アジア・太平洋地域へ海洋進出を強めている中国などを念頭にした偵察や軍事行動も強まっている。そして、トランプ米政権の対イラン有志連合構想への参加要請などがあり、日本政府も「調査・研究」とこじつけて自衛隊の中東派兵を閣議決定するなど、中東情勢の緊張を強めている。今回の原潜ハンプトンの横須賀入港も、これらの動向と無関係ではない。このような軍事的緊張を強める行動は、東アジアや中東の平和と安全にとって百害あって一利なしである。

米政府の「核態勢の見直し(NPR)」は、核兵器を「安全保障に必要」と正当化し、潜水艦発射ミサイル、陸上配備型大陸弾道ミサイル、戦略爆撃機の近代化、小型核弾頭や核巡航ミサイルなどの開発を進めている。トランプ政権は、この間、中距離核戦力(INF)全廃条約の破棄を通告し、未臨界核実験を実施するなど、核兵器開発を進めている。さらに、「イランとの核合意を一方的に離脱」し、「本格的軍事活動を展開」し、イラン精銳部隊司令官を殺害した。われわれはこのような核兵器廃絶や平和構築に逆行する一連の行動に強く抗議する。今後、日米核密約によって米原子力潜水艦に核兵器を搭載して横須賀基地に入港することが懸念される。日米間の核密約を直ちに破棄し、非核三原則を国是とする日本の港に核兵器搭載艦が入港しないことを強く要求する。

首都圏は巨大地震発生の可能性が日々強まっている。地震や津波による原子力艦船の原子炉事故も心配である。原子力艦船の原子炉事故による神奈川県民や首都圏住民の放射線被害は断じて許されない。米軍の地震や津波による原子力艦船の事故対策を明らかにすることを要求する。

横須賀港は米原子力潜水艦の母港ではない。横須賀基地を戦争の出撃拠点にし、県民を放射線被害の危険にさらす原子力艦船の母港化、入港はやめること。原子力空母ロナルド・レーガン、原子力潜水艦ハンプトンは、横須賀港からただちに出て行くことを強く要求する。